

愛隣館研修センターニュース

第45号

〒 612-8141 京都市伏見区向島二ノ丸町 151 TEL 075-621-3849 FAX 075-621-1579

E-mail : Dayservicecenter.Airin@ma2.seikyoin.ne.jp 振替 01020-5-39321

編集発行人：社会福祉法人イエス団 愛隣館研修センター

近鉄向島駅にエレベーターを!

向島地域の住民が日常的に利用している公共交通機関の一つに近鉄電車があります。そして、そのほとんどの方が近鉄向島駅を利用されています。

1979年3月30日に開設された近鉄向島駅は、今では一日の乗降客が平均20,675名（1998年統計）に及び、近鉄京都線の駅の中でも乗降客数は上位にランクされる（ちなみに桃山御陵前駅の乗降客数は約18,000人）ようになったそうです。その向島駅を利用される、障がい者の方や住民の有志で近鉄電車本社宛に以下のような要望書を提出いたしました。

趣旨にご賛同いただける方がおられましたら、愛隣館研修センターまでお問い合わせ下さい。

要望書

近年、地域福祉の基本理念が各方面に浸透し、身体や精神面でさまざまな障害を持ちながらも、そうした障害に屈せず、地域で生きようとする者が次第に多くなっているのは、何よりも私自身、重度の障害を持ちつつも、此の向島の住民としての歳月を重ねている者として、それなりの喜びを感じるのです。

此処向島地域に於いても、多くの障害者や、高齢者が独り暮らしを始めていますが、そうした時代のニーズに応える形で、京都市内を南北、或いは東西に繋ぐ地下鉄道。及び、市内の各ターミナルに乗り入れている近鉄や京阪・阪急などの、それぞれの駅舎にも、エレベータや、車椅子用のリフト、点字の案内板などが設置され、私たち障害を持つ者が安全に電車に乗り降

りできるように配慮されています。

こうして洛中洛外の公共交通機関の設備の改善が図られる中で、此の向島地域の住民が日常的に利用している近鉄京都線の向島駅の駅舎に、エレベータなどの、車椅子での乗降が安全に行える設備が設けられていないのは一体どうしてなのか?



此の近鉄向島駅の駅舎の問題に関しましては、一九八六年の秋、向島地域に住む何人かの障害を持つ者と、在日韓国・朝鮮人などの有志で造られた『向島・差別と人権を考える会』というグループで、近鉄と、その近鉄を指導・監督する立場にある京都市に対して、それぞれ要望書を提出し、それに基づいて、何度か話し合いを行いました。

結論としては、基本的に、状況は十年前と変わっていませんが、その近鉄や、京都市との話し合いで明らかになったのは、京都市が此の向島地域に住宅団地を建設した際、その住民の交通手段を確保するため、京都市が近鉄に対して、向島駅の設置を要請し、その見返りに、駅舎の建設資金の一部を補助金という形で、京都市が負担しているということでした。そうであるなら京都市としても、当然、駅舎の構造などの面で近鉄を指導しなければならない立場にあるはずです。

しかし、実際の近鉄向島駅は、十年前と同じく、私たち日常生活を車椅子で営んでいる者の利用を頑なに阻んでいるのです。十年あまり前の京都市との話し合いの折り、私たちは「向島の駅舎に車椅子で安全に利用できる設備を設けるよう近鉄を指導してほしい」と申し入れました。それに対して京都市からの正式な回答はなく、ただ「もうしばらく近鉄の対応を見守りたい」との言葉を口頭で得たのみでした。

あれから十年あまりの年月が経ちました。この間、京都市に於いては、地下鉄烏丸線と近鉄との相互乗り入れが実現し、引き続いて、地下鉄東西線の営業開始。さらに世界歴史都市会議の開会。そして、遷都千二百年記念に関連したイベントが数多く催されました。

しかしこの十年の間、近鉄向島駅の問題が行政レベルで取り上げられたという話は私たちの許には届いていないのです。

京都市は『障害者の社会参加と平等』を謳った一九七六年秋の国連総会の決議に基づき、ホームヘルパー制度の拡充や、デューサービス事業の推進など、障害者や高齢者の地域での生活を支援するさまざまな施策が講じられています。しかし、そうした施策も、此処向島地域に住む私たちには縁遠く感じられるのは、やはり、近鉄向島駅の駅舎が、車椅子で安全に利用できないという現実があるからではないかと思えます。

私たちは、こうした過去の経過を思い起こし、現在の状況をも見据え、此処に改めて、近畿日本鉄道株式会社、及び京都市に対して、近鉄向島駅の駅舎に、私たち此の地域に住む障害者や高齢者が、安全に電車に乗り降りできる、エレベーターなど必要な設備を早急に設置されるよう強く要望する次第です。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 1. 向島駅にエレベーターの設置を早急にして下さい 1. 運輸省交通施設バリアフリー化設備整備補助金を向島駅整備のために使用できるようにして下さい 1. 早急に京都市と向島駅整備のための話し合いの時をもって下さい 1. エスカレーターを車いす対応のフラット式に改良して下さい |
|--|

以上の要望につきまして、誠意あるご回答をお願いします。

行事

報告

行ってきました!

初夏のお出かけ・デイフェスタ

さあ!太平洋の旅に出掛けよう!!

6月1日、デイサービスのメンバー総勢29名(利用者15名、内車イス使用者10名・スタッフ14名)、大阪ベイエリアの中心的スポットとして定着してきた『海遊館』へ行ってまいりました。好天に恵まれ、絶好のお出かけ日和。初夏の一日を有意義に満喫することが出来ました。

マイクロバスとワゴン車に分乗し、高速道路経由で揺られること約1時間半、眼前に大阪湾を臨む天保山に到着。“ミニ太平洋”、『海遊館』見学の始まり、始まり。



「日本の森」、「アリューシャン列島」、「モンタレー湾」を經由、オーストラリアの「グレートバリアリーフ」の珊瑚礁に一同感動。圧巻は深さ9m、水量5,400tの『海遊館』最大の水槽で表現される「太平洋」。巨大なジンベイザメの姿に、あの名作「ジョーズ」のワンシーンを連想したのは私だけではないはず(ウソ)。

思い思いの時間で見学を済ませた後、マーケットプレースでの昼食。個性の出た店選びに感心させられました。本当に楽しい1日が過ごせ、感謝でした。

デイフェスタ

“きっとみんな主人公!”

6月16日、2年に1回開催される「京都心身障がい者デイサービス合同レクリエーション」に参加。前回までは全利用者に声かけさせてもらっていましたが、今回からは登録利用者も増えたことから、水曜日の利用者に限定させてもらいました。(その他曜日利用者の皆さん、ゴメンナサイ)

日頃、あまり接する機会の無い他地域のデイサービスの人たちと、ゲームを通して交流を深めることができ、とても楽しい(?)ひとときを過ごせました。

午後からの全員参加の「風船パレー」(4つのコートに分かれ、他コートに風船を入れ合い、風船の数の少なかったチームの勝ち)は少々殺気立った楽しさを覚えました。(ルールを勘違いし、手当たり次第、風船を割りまくる職員Hの姿は異様でした)

今後もどんどん積極的に外へ出る機会を持ち、日頃の疲れた体をリフレッシュすることに心がけたいと思います。



'99夏期献金のお願い

—これからの“地域”を見据えて—

当センターが、この向島の地に誕生して
から、早くも20年が経過しようとしてい
ます。今日まで、皆様方のご理解とご支援
によって支えられ、活動を続けることが出
来ましたことを、心より感謝します。
これまでも、この〈地域〉の中で「障が
い」を持つ方、お年寄りや子どもたちが安
心して暮らしていくための手助けとなれる
よう、色々な人々と様々な活動に取り組ん
でまいりました。その中から具体的なひと
つの事業として、身体「障がい」者デイサ
ービス事業を展開することが出来るよう
になりました。
そして、それらの活動や出会いひとつひ
とつを通して〈地域〉をキーワードにした
生活支援システムの必要性を再認識するに
いたりしました。さらにこの四月より向島「障
がい」者地域生活支援センターを発足させ
るごとなり、今後も、新しい活動、事業
を展開していきたいと考えています。その
ためには皆様方のさらなるご理解とご支援
が必要不可欠なものとなってきます。
これまでも皆様方には多額の献金をして
頂いているにもかかわらず、新たなお願い
をさせて頂くのは、誠に恐縮ですが、右記
をのぞき趣旨をご理解くださり、ご協力を
よろしくお願い致します。

《夏期献金・要項》

目的

当センター増改築にかかる借入金の返済、および今後の事業展開に備え、地域福祉の向上に寄与するため。

夏期献金、目標金額

3,000,000 円

※ 口数、金額ともに任意です。

送金方法

※ 以下の口座をご利用ください。

郵便振替

01020-5-39321

口座名：社会福祉法人イエス団

愛隣館研修センター

☆お知らせ

▽愛隣館研修センターは、八月十三日～十八日まで夏期休館日とさせていただきます。

◇当センターを活動の拠点としている「向島障がい者地域生活支援センター（遊隣）」では、夏休みの間、障がいをもつ子どもたちと遊んでくれるスタッフを募集しています。詳しくは当センターまでお問い合わせ下さい。

★編集後記

▼2000年問題がとっても気になります。なんとかなるでしょう。（さん）▼「支援センター」の夏期特別体制が始まります▼スタッフの確保の問題がありますが、なんとかなるでしょう。（ひ）